

平成 28 年度事業報告

平成 28 年度は、夜勤看護スタッフの欠員による病棟閉鎖及びインフルエンザ流行期のベッドコントロールによる稼働率の低下について対策を講じることで病床の有効且つ効率的な稼働を目指し、前年度の危機的状況からの脱却を重要課題として取り組んでまいりました。

スタッフの補充については、夜勤体制の安定維持のため夜勤専従はもとより夜勤可能な方の採用を優先し人員確保に努めました。インフルエンザ流行期の対策としては、流行期の数ヶ月前から関係部門にて協議を重ね流行期に備えました。また 12 月には ICU を 4 床から 6 床へと増床し、入院患者の受け入れ態勢の強化を図りました。

危機的な状況からは脱し一定の成果は得られましたが、28 年度の決算は残念ながら 6,600 万の赤字決算となりました。内容としましては経常収益が 29 億 8,800 万となり前年比では 1 億 7,700 万の増加、費用は 30 億 5,500 万と 900 万の減少計上となりました。

収益については入院患者数の増加により保険診療収益が 1 億 4500 万の増収となりました。

経費については看護部をはじめとする体制整備の為の人件費が 2,600 万の増加、患者増加に伴った材料費が 1100 万の増加、減価償却費 3,800 万の減少、賃借料 1,900 万の減少となり全体としては 900 万の減少となりました。

今期については、一般病棟、包括病棟、療養病棟のベッドコントロールが感染症流行期を含め効率的に運用できたことにより患者数が増加しました。28 年度の 1 日当たり平均入院患者数は 163.5 人となり前年度から 8.8 人の増加となりました。内訳では一般病棟が 126.7 人となり前年から 13.0 人の増加、療養病棟が 36.8 人となり、4.2 人の減少となりました。

平成 29 年度は、更なる稼働病床の有効利用に力を注ぎ、28 年度に引き続き患者の受入を強化し、在院日数の短期化を図り収益増の体制整備に努め地域医療に貢献したいと考えております。併せて、近隣機関との連携を図り地域の医療ニーズに応え、且つ永続的に安定した経営が図れるよう取り組んで参ります。

■ 設備・機器導入

－購入機器等－

- メールシーラー（健診センター） : 4月完了
- 全自動血液凝固測定装置（臨床検査科） : 5月完了
- GE製超音波診断装置（臨床検査科） : 6月完了
- カトリッジ方式全自動酸化エチレンガス滅菌器 : 7月完了
- 電子麻酔表記録装置一式（中材） : 8月完了
- 一般撮影用X線撮影装置（放射線科） : 10月完了
- CR装置一式（放射線科） : 10月完了
- 自動錠剤分包装機器（薬剤科） : 11月完了
- 心電図データーベース（健診センター） : 未完了
- 眼圧計（健診センター） : 未完了
- 業務用マルチ周波数体組成計（健診センター） : 未完了

■ 人 事

－入職者－

医師－1名

看護師－7名、准看護師－3名、保健師－1名

理学療法士－1名、検査技師－1名

管理栄養士－1名、調理師－3名

医師事務補助－2名、事務－5名

年度内産休取得者 10名（看護師（准）－7名、他－3名）

年度内産休復帰者 7名（看護師（准）－4名、他－3名）

－退職者－

定 年 : 病院 : 2名

: 訪問看護 : 0名

中途退職 : 病院 : 27名

: 訪問看護 : 0名